

平成 26 年 4 月 25 日制定

平成 27 年 7 月 1 日改訂

平成 28 年 11 月 10 日改訂

平成 29 年 12 月 11 日改訂

令和元年 6 月 11 日改訂

2020 年 6 月 1 日改訂

2023 年 7 月 6 日改訂

## 1. 提出原稿の書式

ワープロソフト (Word) を使用し、日本方言研究会ウェブサイトからファイルをダウンロードして使ってください。提出原稿の大きさは A4 判用紙とし、1 頁の行数、文字数は以下を目安にしてください。

本文： 1 行 34 字, 1 ページ 30 行

注や文献： 1 行 40 字, 1 ページ 33 行

本文・図表ともにカラーは使えません。

## 2. 横書きと縦書き

原則として横書きで書いてください。

## 3. 使用文字

できるだけ JIS 第 2 水準までの文字を使用してください。また、音声記号は Unicode 表 (UTF-8) にあるものを使用してください。機種依存文字 (○付き数字, 半角カタカナなど) や外字はできるかぎり使わないようにしてください。また、本文に太字やゴシック体などは使わないようにしてください。

## 4. 句読点

本文の句読点は「,」と「。」を使ってください。

## 5. 図表

図表は、なるべく当該個所 (原則として行間に配置, ワードの「上下」で設定して) に貼りつけてください。貼りつけられないときは、図表を別に用意し、それぞれの図表の挿入個所を明示してください。また図表内の文字はワープロ原稿において 9pt 以上で表示されるように作成してください。

図表には、キャプションを付してください。

なお、版組をする際には、全体の統一をはかるために図表の体裁について変更することがあります。特に、表の枠は、上下の横線のみで、左右両サイドの縦線は記されませんので、これまでの『方言の研究』のバックナンバーの表を参考にしてください。

## 6. ルビ

ルビ（ふりがな）の使用は、必要最小限にしてください。

## 7. 注と引用文献の位置

注と引用文献は本文の後に「注」、「引用文献」として挙げてください。引用文献を示すためのみの注は付さないでください。引用文献は、本文中で言及した文献に限ります。引用文献の書き方は、次のようにしてください。

・本文中での言及：下の例にならい、「執筆者の姓（発表年）」「(執筆者の姓 発表年)」のように表記してください。執筆者が3名以上の場合は筆頭者の姓のみ記し、第2著者以下は略してください。同姓の別の執筆者の文献を引用する場合など、必要に応じて執筆者をフルネームで記してもかまいません。引用箇所を明示する際には「発表年：ページ」としてください。

例：Rialland (2007) や木部 (2010) によると、…

小林 (1997a, 1997b, 2004 : 352) は助詞「サ」について…

木部・橋本 (2003 : 92) は鹿児島市方言の外来語について「……」とする。

Pierrehumbert and Beckman (1988) の韻律モデルでは、…

佐藤ほか (2014) の調査報告では、…

疑問文の文末は…と言われている (Rialland 2007: 58-60, 木部 2010 : 18-19)。

手法として…が一般的である (大西編 2016, 二階堂 2020)。

近年は…についての議論がなされている (Heinrich et al. eds. 2015)。

・本文の後：筆頭著者の姓のアルファベット順に配列してください。次に例示します。

Britain, David (2012) “Innovation diffusion in sociohistorical linguistics.” In Hernández-Campoy, Juan Manuel and Juan Camilo Conde-Silvestre (eds.) *The Handbook of Historical Sociolinguistics*, 451-464. Malden, MA: Wiley-Blackwell.

文化庁「令和3年度「国語に関する世論調査」の結果の概要」  
[https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/kokugo\\_yoronchosa/pdf/93774501\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/93774501_01.pdf) [最終閲覧 2023.4.5]

Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara and Michinori Shimoji (eds.) (2015) *Handbook of the Ryukyuan Languages: History, Structure, and Use*. Berlin / New York: Mouton De Gruyter.

木部暢子 (2010) 「イントネーションの地域差—質問文のイントネーション—」小林隆・篠

- 崎晃一（編）『方言の発見—知られざる地域差を知る—』1-20, 東京: ひつじ書房.
- Kibe, Nobuko (2012) “Intonation system of the Kagoshima dialect in Japan.” *FONETIK* 2012: 13-16, Department of Philosophy, Linguistics and Theory of Science, University of Gothenburg.
- 木部暢子・橋本優美（2003）「鹿児島市方言の外来語の音調」『音声研究』7(3): 92-100.
- 小林隆（1997a）「方言形成史の一視点—東日本における畿内中央語の再生について—」『国文学』42(7): 13-20.
- 小林隆（1997b）「周圏分布の東西差—方向を表す「サ」の類について—」『国語学』188: 26-39.
- 小林隆（2004）『方言学的日本語史の方法』, 東京: ひつじ書房.
- Kurath, Hans (1939-43) *Linguistic Atlas of New England*. Providence: Brown University Press.
- 二階堂整（2020）「地方議会会議録を用いた方言研究」<http://dialectology.jp.org/wiki.cgi?page=%CA%FD%B8%C0%B8%A6%B5%E6%BB%D9%B1%E7%A5%D7%A5%ED%A5%B8%A5%A7%A5%AF%A5%C8> [最終閲覧 2023.4.5]
- 大西拓一郎（編）（2016）『新日本言語地図—分布図で見渡す方言の世界—』東京: 朝倉書店.
- Pierrehumbert, Janet B. and Mary E. Beckman (1988) *Japanese Tone Structure*. Cambridge, MA / London: MIT Press.
- Rialland, Annie (2007) “Question prosody: an African perspective.” *Tones and Tunes* 1: 34-62.
- 佐藤亮一・米田正人・阿部貴人・佐藤和之・水野義道（2014）「鶴岡調査から見る方言の将来」横山詔一・杉戸清樹・佐藤和之・米田正人・前田忠彦・阿部貴人（編）『社会言語科学の源流を追う』95-114, 東京: ひつじ書房.

## 8. 要旨

原稿の最初に、要旨（400字以内）を付けてください。要旨は、結論が分かるように書いてください。なお、資料・情報と解説には、要旨は不要です。

## 9. キーワード

3〜6個のキーワードをつけてください。資料・情報と解説には、キーワードは不要です。

## 10. 著者の匿名性

著者の匿名性が保たれ、かつ、査読に支障のない表現を用いてください。著者自身の先行研究に言及する際は、「拙論（2022）」のように著者が特定できる表現を用いたり「〇〇（2022）」のように伏字にしたりせず、著者名は明記したうえで客観的な記述を行ってください。

## 11. 投稿原稿の様式

投稿は、電子メールにより、以下の4種類のファイルを編集委員長宛てに添付ファイル

で送ってください。

- (1) 原稿の正本（題名，氏名，所属，要旨，キーワード，本文，図表，注，文献を含むもの）。資料・情報と解説は，要旨とキーワードは不要です。
- (2) 原稿の副本（正本から氏名・所属のほか，謝辞を含め著者が特定できるような部分を除いたもの）。依頼原稿は副本不要です。
- (3) 投稿用紙
- (4) 原稿の正本と副本の PDF ファイル

- ・ (1) (2) (3)のファイルは，Word の文書ファイルで送ってください。
- ・ (4)の PDF ファイルは，(1)(2)のファイルから作成してください。文字化けを避けるため，PDF 作成時には，かならず全てのフォントの埋め込み処理をおこなってください。
- ・ 原稿作成用 Word ファイル，投稿用紙は，日本方言研究会のウェブサイト（→投稿原稿の様式のページ）からダウンロードできます。ダウンロードできない場合は，日本方言研究会編集委員会にお問い合わせください。

## 12. 英語の題目・要旨等の提出

採用決定後に，英語による題目，氏名，所属，要旨（200 ワード以内），キーワードを提出していただきます。著者の責任でネイティブチェックを行ってください。

資料・情報と解説の場合は不要です。